

## 8月29日(土)第2回「ほっと・ぼらんていあ」の報告

今回のテーマは、「おかえり！！ 罪を犯した人も、やがて社会にもどってきます。」～これらの人たちが再び罪を犯すことがないように立ち直りを助けるとともに、犯罪や非行のない安心・安全な地域社会をつくるための取り組みがあります。それが「更生保護」です。このお手伝いをしているのがボランティアの（保護司）です、と・・・ゲストに「竹鼻政嘉さん」をお迎えして、お話しいただきました。

**保護司**とは、犯罪や非行をした人の立ち直りを地域で支える**民間のボランティア**です。保護司法に基づき、法務大臣から委嘱された**非常勤の国家公務員**とされていますが、**給与は支給されません**。保護司は、民間人としての柔軟性と地域の実情に通じているという特性をいかし、保護観察官と協働して保護観察に当たるほか、**犯罪や非行をした人が**刑事施設や少年院から**社会復帰を果たしたとき**、スムーズに社会生活を営めるよう、**釈放後の住居や就業先などの帰住環境の調整や相談**を行っています。このような保護司は、全国に約4万8,000人います。

**竹鼻さんは**「自分たちの活動が、**これまで、あまり公の場で語ることはありませんでした**。どちらかという、タブー視されるような傾向にあり、扱いにくく、議論も少なく、話しづらいというようなマイナスのイメージがありました」と、**言葉を選びながら**（保護司を始めて18～19年目）お話ししてくださいました。「**対象者と関わる時は、辛抱強く、話してくれるまで待つこと**。我慢比べに似ていて、自分が、これほどまでに我慢強かったかなと思う時がある。でも、**無理に話を聞き出そうとすると**、都合の良い嘘をつくようになり、**嘘に嘘を重ねていくこと**にもなるので、心を開くまで待つことが大事である。また、人との出会いや、コミュニケーションを積み重ねていく中で、**自分自身で気づき、変わろうと思って、その人自身が動き始めた時に**エンジンが掛かり**更生していくことになる**」と・・・温かく見守っている様子が伝わってきました。

**参加者からは**～あまりにも範囲が広すぎて良く分からなかった。**もっとお話を聞きたかった**との感想が多く、20代から70代までの各年齢層の方々17名の方が参加して下さり、みなさんの関心が高いことが分かりました。

「ほっと・ぼらんていあ」は、みなさんのボランティア活動に少しでも役立てていただけるように、2か月に1回程開催予定です。**次回は、11月3日(火)文化の日**の13:30～15:30分まで、**ボランティアグループ「ファイアーマン」**の古川昭さんをお招きし、**お米で作るポン菓子も披露**していただく予定です。**親子でもご参加**いただけます。詳細に関しては、ボランティア支援センターのHPや広報、新聞等で確認していただければ助かります。**ボランティアに興味のある方に限らずに、みなさんのご参加をお待ちしています。**